



⑥すきすきすぎーと36

暮らしと道の係わりを意識してもらうため、北緯36度線と国道4号線との交差する地点に設置した休憩所として、杉戸町のウエルカム・モニュメントとして親しまれています。名称は公募され、町内の中学生のものが採用されました。訪れた人々に杉戸町をPRできるように町の位置や歴史などが表示された案内板も設置されています。

関東郡代
 関東郡代伊奈氏は、関八州の幕府直轄領約30万石を管轄する。行政・裁判・年貢徴収なども取り仕切り、警察権も統括していた。また将軍が鷹狩りをするための狩場の管理も行っている。
 陣屋をはじめ武蔵野国小室（埼玉県伊奈町）の小室陣屋。のち寛永6年（1629）に同国赤山（埼玉県川口市）の赤山陣屋へと移された。さらに武蔵国小菅（東京都葛飾区小菅）にも陣屋があり、家臣の代官を配置していた。
 徳川家康の関東入府の際に伊奈忠次を関東の代官頭に任じたことに始まり、その後12代200年間にわたって伊奈氏が関東代官の地位を世襲した。

⑤ふどう院跡（所在不明で推定）

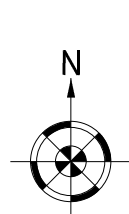
「西の方へ二丁程に不動院と云修験の寺あり、寺領百石、境内1里半古利根川に傍（そい）て林あり、日本十六ヶ寺の内に、修験の頭より、余程の大地にて昔は水府公の姫君を内室に迎えしとなり。世に幸手の不動院とはいへど、粕壁の宿はつれにて、大門は往還に出て並木あり」（日光駅見聞雑記）とあり観音院の西、古利根川沿いの500m四方の大寺であったが、その面影はない。

⑤ 伊奈忠次

三河国小島城主伊奈忠家の嫡男として生まれる。
 天正3年（1575）長篠の戦いに従軍して功を立て、天正10年（1582）に本能寺の変が勃発し、堺を遊覧中であつた家康を本国へと脱出させた伊賀越えに小栗吉忠とともに貢献する。
 この功により、父忠家の旧領小島を与えられる。
 また三遠奉行の一人として検地などの代官であつた吉忠の同心となり、のちに吉忠の跡を継ぐ形で代官衆の筆頭になる。
 以後駿・遠・三の奉行職として活躍、豊臣秀吉による小田原征伐や文禄・慶長の役では大軍を動かすための小荷駄による兵糧の輸送、街路整備などを一手に担い、代官としての地位を固めた。
 家康が江戸に封印された後は関東代官頭として大久保長安、彦坂元正、長谷川長綱らとともに家康の関東支配に貢献した。
 関東を中心に各地で検地、新田開発、河川改修を行った。利根川や荒川の付け替え普請、知行割、寺社政策など江戸幕府の財政基盤の確立に付与しその業績は計り知れない。
 また、伊奈町大字小室丸山に伊奈屋敷跡、つくばみらい市伊奈地区は嫡男忠治の屋敷があつた。
 諸国からの水運を計り、江戸の繁栄をもたらした忠次は、武士や町民たちはもとより、農民に炭焼き、養蚕、製塩などをすすめ、桑、麻、楮などの栽培方法を伝えて広めたため、農民たちからも敬われたという。

①国道16号（通称、東京環状）

神奈川横浜市区西区を起・終点とし、首都圏を環状に結ぶ一般国道である。
 国道16号は東京近郊を環状に結ぶ数少ない道路であり、神奈川県横浜市、相模原市、東京都八王子市、埼玉県川越市、さいたま市、千葉県柏市、千葉市といった都市を結ぶため日中は交通量が非常に多く、流れの良くない区間が多い。小淵の交差点は16号線が4号線の下をくぐっている。



22 粕壁宿～杉戸宿
 埼玉県春日部市 埼玉県杉戸町
 小淵～本郷
 （歩行距離 1708m 21分）
 歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
 JZE00512@nifty.ne.jp



芭蕉の句碑（小淵観音院境内）
 「毛（も）のいへば 唇さむし 秋の風」

日光街道
 江戸時代以前の道（古奥州道）は、千住から越谷間は古利根川、元荒川に沿った道でしたが、江戸防衛上、水田開発促進のために沼や湿地を埋め立てて千住から北へ真直ぐ伸びる道がつくられました。
 家康が鷹狩りに使っていた道でした。日光海道（街道）とよばれていたが、後に日光道中と定められました。
 日光街道は、日本橋（東京都中央区）～千住宿（東京都足立区）～草加宿（埼玉県草加市）～越ヶ谷宿（埼玉県越谷市）～春日部宿（埼玉県春日部市）～杉戸宿（埼玉県杉戸町）～幸手宿（埼玉県幸手市）ここで御成街道と合流する。～栗橋宿（埼玉県久喜市栗橋）～中田宿（茨城県古河市）～古河宿（茨城県古河市）～野木宿（栃木県野木町）～間々田宿（栃木県野木町）～小山宿（栃木県小山市）～新田宿（栃木県小山市）～小金井宿（栃木県下野市）～石橋（栃木県下野市）～雀宮宿（栃木県宇都宮市）～宇都宮宿（栃木県宇都宮市）～徳次郎宿（栃木県宇都宮市）～大沢宿（栃木県日光市）～今市宿（栃木県日光市）～鉢石宿（栃木県日光市）～日光東照宮までの道のりだった。

小淵の名の由来
 大落古利根（おおおとしふるとね）川と庄内古川の間の沖積地に位置する。地名の由来は地内の百余尊権現の縁起によれば、当地は古利根川の水底深き大淵なりし故、巨淵と呼ばれていたが転化したという。
 【角川日本地名大辞典】一般に川がカーブして流れが緩やかな所を「淵」と言う。

③小淵観音院
 正嘉2年（1258年）に開基と伝えられる古刹で、正式名称は正賢寺。本尊は「こぶとり観音」と呼ばれている聖観音。家内安全、商売繁盛、いば、こぶ、あざにご利益があるといわれている。7体の円空仏の中でも蔵王権現像はとても珍しい。
 市内唯一の楼門（仁王門）元禄年間（1688～1704）に建立された。昭和47年に春日部市指定の有形文化財に指定されている。茅葺きの本堂は文政8年（1825）に再建。天井が格子天井になっており「百花図」が描かれている。



②関宿道
 関宿道は関宿城に通じる道。関宿藩の城下町として栄えたが、明治4年（1871）の廢藩と昭和以降の水運の衰退・消滅によって小都市としての独自性は失われた。関宿城の遺構は利根川や江戸川等の合流点付近に位置し明治以降に行われた河川改修のために保存状態が悪く、元の武家屋敷等もあまり残されていないために、いわゆる「城下町」としての景観はない。

日光社参
 日光街道は、もともと東照宮の参道として整備されましたが、「伊勢参りの道」のような「信仰の道」ではなく、実際は「政治の道」でした。日光街道の一大イベントであつた将軍社参の大行列がそのことを示しています。この行列は幕府の威光を周囲や各大名に見せつけるものだったので。
 徳川幕府は15代280年間に合計19回の将軍社参があつたといわれます。中でも、8代将軍吉宗の社参は、動員された人員が25万人にもなりました。しかし、これだけの規模で日光に到着しても、たった1泊で帰途についたことから、社参を名目にした軍事演習だったという見方もあります。